

# 日本社会科教育学会 第 64 回全国研究大会（静岡大会） プログラム

**大会主題** 変化する社会と学校をつなぐ  
**期 日** 2014（平成 26）年 11 月 29 日（土）・30 日（日） ※関連行事は 28 日（金）  
**会 場** 静岡大学教育学部（〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836）  
**主 催** 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門  
**後 援** 静岡県教育委員会 静岡市教育委員会 浜松市教育委員会

## 日程

第 1 日目 11 月 29 日（土）

8:30	9:30	12:00	13:30	16:00	16:15	17:00	17:20	19:20
受付	自由研究発表	昼食 評議員会	シンポジウム	移動	総会	移動	懇親会 (静岡大学 第一食堂)	

第 2 日目 11 月 30 日（日）

8:30	9:00	11:30	12:30	15:00
受付	自由研究発表	昼食	課題研究発表	

## 関連行事

### (1)授業公開

2014（平成 26）年 11 月 28 日（金）

会場 静岡大学教育学部附属島田中学校（〒427-0041 静岡県島田市中河町 169）  
テーマ 法的空間を生きる私たち－社会と学校をつなぐ社会科授業－  
学年 第 3 学年 B 組  
授業者 静岡大学教育学部附属島田中学校 岩本 知之教諭  
内容 なぜ炭焼きレストランさわやかは売り上げが伸び続けているの？  
(第 6 時「炭焼きレストランさわやかと学ぶ『労働について』①」)  
受付 13:00  
授業 13:40～14:30  
研究協議会 14:45～16:45

### (2)巡検

2014（平成 26）年 11 月 28 日（金）

テーマ 世界文化遺産富士山の魅力と社会科教育  
対象地域 富士宮市周辺  
人数 先着 30 名  
集合時間・場所 13:00・JR 静岡駅前集合  
時間 13:00～17:30  
費用 1500 円（ただし、JR 静岡駅までの移動にかかる費用に関しては実費負担）

第1日目

2014（平成26）年11月29日（土）

自由研究発表I 9:30~12:00

自由研究発表I－第1分科会

B109

司会者

国立教育政策研究所

二井 正浩

東京学芸大学

渡部 龍也

- (1) 米国におけるPBLを用いた社会科学習に関する研究

筑波大学大学院

木下 祥一

- (2) 1960～70年代初頭のアメリカ政治学と社会科教育

－J・ギブソンの活動を中心にして－

日本学術振興会特別研究員・早稲田大学大学院

田中 修平

- (3) 真正の歴史学習における変容的学習に関する考察

－『ミステリーとして合衆国史を教える』を手がかりにして－

元三重県公立高等学校

中村 洋樹

- (4) 社会を読み解くことにおける‘Doing History’の意義

－イングランド中等前期歴史教科書 The Impact of Empire から得られる示唆－

広島大学大学院

菅尾 英代

- (5) ドイツ諸州の中等歴史教育における「歴史文化」の取り扱い

山梨大学

服部 一秀

自由研究発表I－第2分科会

B110

司会者

上越教育大学

志村 喬

兵庫教育大学

吉水 裕也

- (1) 中学校地理的分野「世界の諸地域」学習に関する研究

愛知教育大学・静岡大学共同大学院

長倉 守

- (2) 地域の問題を発見・探究するためのGISの利用

筑波大学大学院

國原幸一朗

- (3) ハウスホーファー「太平洋地政学」の地理教育論的考察

群馬大学名誉教授

山口 幸男

- (4) オーストラリア地理カリキュラム2014年版(ver6.0)の構造性

－汎用的能力と地理的探究・技能を中心にして－

宮城教育大学大学院

沓澤 遥

- (5) 諸外国の地理カリキュラムにみる地理的基本概念の機能

宮城教育大学

吉田 剛

**自由研究発表 I – 第 3 分科会****B111**

司会者

日本女子大学

田部 俊充

群馬大学

宮崎 沙織

(1) 持続可能な漁業へ

– 第 5 学年「資源管理型の水産業へトライ」の授業実践を通して –

宇多津町立宇多津小学校

河野 富男

(2) 高校地理における文化遺産を活用した授業開発

– ESD の理念をふまえて –

北翔大学

菊池 達夫

(3) 社会参加を意図した高等学校地理授業とその課題

– 「アマゾン熱帯林開発と持続的発展」の授業実践を例にして –

専修大学松戸高等学校・筑波大学大学院

泉 貴久

(4) 持続可能な世界史教育とは

– ユネスコスクールからみた視点 –

東京都立杉並総合高等学校

藤野 明彦

(5) 水問題を基軸とした ESD の展開

香川大学

伊藤 裕康

**自由研究発表 I – 第 4 分科会****B214**

司会者

大正大学

館 潤二

掛川市立大須賀中学校

三輪 直司

(1) 1955 年前後の中学校社会科カリキュラムの再編とその実践例

– 福岡学芸大学附属小倉中学校の実践の分析を中心に –

東京都立農業高等学校

大木 匡尚

(2) 喜多川歌麿の「大首絵」はなぜ人気があったのか?

新潟市立石山中学校

小林 朗

(3) 地域と人間のかかわりを考える

– 地域に生きる人々への聞き書きを通じて –

奈良女子大学附属中等教育学校

北尾 悟

(4) 中学校社会科授業改善の実践的研究

– 問題解決学習を軸とした単元開発を通して –

三条市立栄中学校・新潟大学大学院

関 拓也

(5) 国際社会に生きる平和な社会の形成を担う生徒の育成 I

足立区立第四中学校

山田 勝之

東京学芸大学附属世田谷中学校

石本 貞衡

江東区立辰巳中学校

仲村 秀樹

**自由研究発表 I – 第 5 分科会****B215**

司会者

横浜国立大学

重松 克也

広島大学

棚橋 健治

- (1) 「地域に根ざす社会科」カリキュラムの編成

－兵庫県日高町立府中小学校（当時）社会科カリキュラムを手がかりに－

関西学院大学

峯岸 由治

- (2) 「社会科・総合学習通信」を使った社会認識の形成についての研究

－小学校社会科・総合学習実践「種子島の酪農」の分析を通して－

琉球大学

白尾 裕志

- (3) 社会科授業構想と生徒の社会認識

－進路多様校生徒の暴力に関する意識に着目して－

横浜市立十日市場中学校

平澤 知治

- (4) 「社会科は暗記物」という社会科観を変容させるための試み 4

－教材ウォッチングと導入 3 分間模擬授業を通して－

玉川大学

伊東富士雄

- (5) バベルの塔問題に関する基礎的調査

－誤認識はどこにあるのか？－

日本体育大学

猪瀬 武則

名古屋女子大学

宮原 悟

新潟大学

高橋 桂子

**自由研究発表 I – 第 6 分科会****B216**

司会者

静岡大学

石井 潔

桐蔭横浜大学

谷田部玲生

- (1) 倫理「日本の思想」へのアプローチ (6)

－神仏習合と日本人の宗教感覚について－

岐阜県立加納高等学校

大橋 弘志

- (2) 高等学校「倫理」神託を探求するソクラテスの考察にもとづく授業実践

－「逆向き設計」論とパフォーマンス評価の手法に着目して－

北海道岩見沢東高等学校

佐藤 克宣

- (3) 「思考実験」を通じた高校倫理

－「多角的視点」を育むための授業実践－

公文国際学園中等部・高等部

渡辺 太郎

- (4) 「自律」と「寛容」を育成する高等学校公民科の授業展開の工夫

－シティズンシップ教育との関連を踏まえて－

東京都立立川高等学校

富塚 昇

- (5) ナラティブ・アプローチによる高等学校公民科教育の生態学的研究  
—学習者の問い合わせ「わたしは生きていいくのか」に応じた授業構成の検討—  
佐賀県立高志館高等学校・佐賀大学大学院 堤 文

自由研究発表 I —第 7 分科会

B217

司会者 亜細亜大学 三浦 朋子  
京都教育大学 水山 光春

- (1) 「主体化」をめざすシティズンシップ教育の構想  
—アイデンティティの承認に着目して—  
常葉大学 鎌田 公寿
- (2) Active Citizen の育成を目指すシティズンシップ教育としての歴史教育  
—沖縄県のシティズンシップ教育副読本を事例として—  
筑波大学大学院 渡辺 弘樹
- (3) 社会認識に基盤を置いたシティズンシップの実体化およびその再構築モデルの開発研究(3)  
—コミュニケーション理論に基づく小学校社会科授業の開発・実践・検証を通して—  
岐阜大学 田中 伸  
岐阜大学附属小学校 高木 良太  
岐阜大学附属小学校 杉浦 孝志
- (4) シティズンシップ教育としての未成年模擬選挙の課題と可能性  
—「未成年模擬選挙」実践における過程的分析—  
東洋大学 林 大介

自由研究発表 I —第 8 分科会

B218

司会者 明治学院大学 佐藤 公  
桜美林大学 田中 曜龍

- (1) 歴史的思考力の育成をめざす戦後改革の単元開発  
—戦前・戦後の断絶性と連続性の視点から—  
浜松市立入野中学校・愛知教育大学・静岡大学共同大学院 鈴木 正行
- (2) 「メディア視点」を取り入れた小学校社会科歴史学習  
—第 6 学年「長く続いた戦争と人々のくらし」の単元を事例に—  
名古屋市立野田小学校 松本 卓也
- (3) 日本人の成立  
—「世界（史）の中の日本（史）」をどう構想するか(二)—  
愛知県立東海商業高等学校 糸井 仁
- (4) 中等歴史教育における日中韓の共通歴史教材研究  
—内容の比較・分析を中心として—  
秋田大学大学院 本間 隆造

(5) 学生は安井俊夫実践からなにを学んだか

元千葉県公立高等学校 加藤 公明

## 自由研究発表 I – 第 9 分科会

G001

司会者 東京学芸大学附属竹早中学校

荒井 正剛

静岡大学

塩田 真吾

(1) 生徒が ICT を活用し、調べ、発表する高校歴史授業の試み

－目の前の生徒の現状と近年の高校歴史授業改革の議論をふまえて－

山梨県立身延高等学校

橋本 昌樹

(2) 社会科授業における ICT を活用した発問分析方法に関する研究

仙台市立中野栄小学校・東北大学大学院

菅原 友子

東北福祉大学

三浦 和美

東北大学大学院

中島 平

(3) 中学校社会科における新聞活用学習の開発

釧路市立鳥取中学校

林 祐史

(4) 新聞を活用した社会科授業に関する一考

秋田県教育庁南教育事務所

小坂 靖尚

(5) 社会科教育における情報リテラシーの位置について

－メディアを調べ発信する教育実践の質的研究を通じて－

帝京大学

鎌田 和宏

## 自由研究発表 I – 第 10 分科会

G104

司会者

東京都立小岩高等学校

渥美 利文

国立教育政策研究所

大杉 昭英

(1) 中学校社会科における法教育の単元開発

－歴史的分野の権力の取扱いを中心として－

袋井市立浅羽中学校

高橋 壮臣

(2) 立憲主義と人権保障

－近代立憲主義から現代立憲主義へ－

川崎市立野川中学校

大坂 誠

(3) 人権感覚の育成を目指す授業構成・教材開発に関する一考察

－高等学校における公民科での授業実践を通して－

南九州短期大学

佐保 忠智

(4) 児童の発達を踏まえた法教育のあり方の研究

－質問紙調査の結果を踏まえて－

福井大学	橋本 康弘	川崎医療短期大学	中原 朋生
岡山県立大学	樟本 千里	京都大学	土井 真一
筑波大学	根本 信義	静岡大学	磯山 恭子
岡山大学	桑原 敏典	岐阜大学	須本 良夫
東京学芸大学	渡部 竜也	広島文化学園大学	二階堂年惠

(5) 公正な社会的判断力の育成のための方法論的検討

－ICT機器とクラウド環境を活用した小学校の授業実践を手がかりとして－

東京学芸大学 川崎 誠司

自由研究発表 I – 第 11 分科会

G202

司会者	常葉大学 千葉大学	安藤 雅之 竹内 裕一
-----	--------------	----------------

(1) 社会科教員養成におけるライフストーリーの応用可能性

－教科観の形成と語りの効用－

日本学術振興会特別研究員・筑波大学大学院 村井 大介

(2) 社会科の授業における「授業力の『見える化』」

－教員研修DVDによる「授業をみる力」獲得プログラム－

千葉大学 佐瀬 一生

(3) 小学校社会科教師の力量形成過程に関する研究

－エキスパート教員を事例として－

神戸市立竹の台小学校・広島大学大学院 中島 常彦

(4) 小学校教科専門科目「社会」のあり方と課題

－シラバスの分析を中心に－

神戸女子大学 佐藤 浩樹

(5) 大学院生の授業構想力と授業実践力育成

－中学校社会科公民的分野 単元「憲法って何？ 生活の中から憲法の本質を考えよう」－

新潟大学	宮薗 衛	新潟大学大学院	関 拓也
新潟大学大学院	赤根ひかる	新潟大学大学院	伊藤 直貴
新潟大学大学院	早福 史	新潟大学大学院	中原 澄佳
新潟大学大学院	鈴木 里歩		

自由研究発表 I – 第 12 分科会

G204

司会者	静岡大学 横浜国立大学	池田 恵子 西脇 保幸
-----	----------------	----------------

(1) 災害史・環境史研究のESD教育実践への活用

新潟県立新発田高等学校 竹田 和夫

(2) 社会科教育における学校防災教育の意義

－公民的分野からの防災教育の提案－

横須賀市立鴨居小学校

山田 雅貴

(3) 被災地における社会科エクスカーション

－東日本大震災による津波被災地での実践－

公文国際学園中等部・高等部

中村 洋介

公文国際学園中等部・高等部

齋藤 亮次

(4) 状況的懐疑主義に基づく社会科授業の開発

－中等後期単元「脱原子力発電をめぐる議論」－

佐賀市立春日北小学校

田本 正一

(5) 社会系教科における原発震災下の「農と食」の論点

－「美味しんぼ問題」の授業化－

秋田大学

井門 正美

昼食

12:00~13:30

B212

※評議員、幹事のみなさまはご参集ください。

## 人口減少によって変化する社会と社会科教育の可能性

### [趣旨]

2005年に、日本は人口減少社会に転換しました。社会は人によって形成される以上、人口減少は社会の変化に直結します。大会主題をうけて、シンポジウムでは、日本社会に進行する変化の一つである人口減少に注目しました。

人口減少は、人と人、人と社会、社会と社会との関係性に、少なからず影響を及ぼします。たとえば、支える側の減少に伴う社会保障の仕組みの公正さへの信頼の揺らぎや生産年齢人口の推移による産業構造への影響、在留外国人や移民といった越境する市民の人権や異文化共生の課題、少子高齢化に伴う生命倫理の考え方といった様々な社会の課題に、新たな変化をもたらします。新たな変化に対応する市民を育てるために、いまとこれからを生きる子どもを育てる学校教育も変わっていかなくてはならないことは、言うまでもありません。

より良い社会の創造のために、このような新たな変化をもたらす様々な社会の課題に、主体的に問い合わせをもって考え、お互いに意見を議論し合い、その解決のために協力して行動する資質や能力が、市民一人ひとりに今後ますます問われるようになるでしょう。そのため、公民的資質の育成を目指す社会科において、人口減少による社会の変化に向き合うことに、大きな意味があると考えます。

この人口減少によって変化する社会と学校をつなぐ社会科教育には、様々な課題があります。東アジア各国の人口減少との関係を視野においた社会科教育の方策、第三次産業化による産業学習の変革、単独世帯の増加に代表される社会の個人化に対応した新たなシティズンシップ教育の構築、人口減少を想定した社会科授業づくりの取り組みといったものです。

シンポジウムでは、このような多様な観点から、社会科教育の課題をシンポジストに提起していただく予定です。そして、人口減少によって変化する社会と社会科教育の可能性をめぐって、どのような市民の育成を目指すのか、そのためにどのような授業が求められるのか、参加者の皆さんとともに議論を深めます。

司会者

広島大学 池野 範男

静岡大学 馬居 政幸

### 報告者

#### (1) 人口減少によって変化する社会と社会科教育の課題

—グローバル時代における「国際分業的観点」の必要性—

韓国公州大学校 李 明熙

#### (2) 社会変動をとらえる「現代社会」カリキュラム開発

—人口減少社会を視点として—

兵庫県立西宮香風高等学校 石川 照子

#### (3) 少子高齢・人口減少社会を生き抜く力を育む社会科・総合の課題と可能性

—10年間の授業実践を通して—

富士宮市立内房小学校 米津 英郎

#### (4) 人口減少社会における社会科の未来

—「社会的課題」「見方や考え方」「協同学習」の重要性—

筑波大学 唐木 清志

## 自由研究発表Ⅱ 9:00~11:30

## 自由研究発表Ⅱ－第1分科会

B109

司会者

広島大学

木村 博一

信州大学

篠崎 正典

- (1) 都立高校における初期社会科「時事問題」の授業実践について

慶應義塾大学

太田 正行

- (2) 昭和初期における東京女子高等師範学校附属小学校の作業主義地理教育論

－「読図力」の養成と「地理的理法」の発見の理論をもとに－

愛媛大学

福田 喜彦

- (3) 初期社会科における「ごっこ遊び」の系譜

流通経済大学

市川 新

- (4) 昭和戦前期郷土研究室の所蔵資料と師範学校間における情報共有

－奈良教育大学所蔵資料の分析を中心に－

奈良教育大学

板橋 孝幸

奈良教育大学

岩本 廣美

- (5) 奈良県師範学校が設置した郷土研究室と収集資料

－目録及び生徒の調査活動記録に注目して－

奈良教育大学

岩本 廣美

奈良教育大学

板橋 孝幸

## 自由研究発表Ⅱ－第2分科会

B110

司会者

国士館大学

北 俊夫

岐阜大学

須本 良夫

- (1) 社会科における問い合わせのつながり

－「単元を貫く問い合わせ」を組み入れた授業設計－

静岡大学附属静岡小学校

平松 裕

静岡大学附属静岡小学校

永倉 大樹

静岡大学附属静岡小学校

森 栄温

- (2) 小学校社会科における実感的な学び（その4）

－第6学年 くらしと政治・世界の人々と日本を例に－

東京学芸大学附属小金井小学校

根本 徹

- (3) 活用力を育てる社会科授業の創造

－5年水産業の盛んな地域を事例にして－

江東区立第五大島小学校

香川 稔

帝京大学

向山 行雄

- (4) 価値判断力を育成する社会科授業  
－富士山の文化的価値を考える学習を通して－

筑波大学附属小学校 梅澤 真一

- (5) 特別活動と社会科学習を関連させた指導法  
－実践上の課題から指導のあり方を探る－

北海道教育大学岩見沢校 田山 修三

## 自由研究発表Ⅱ－第3分科会

B111

司会者 上越教育大学 茨木 智志  
兵庫教育大学 原田 智仁

- (1) 歴史学習における「『問』と『答』との間」の捉え方

牛久市立中根小学校 石上徳千代

- (2) 「学ぶ観光」の不在にみえる歴史教育の課題

東洋大学 須賀 忠芳

- (3) 琉球・沖縄史を位置付けた小学校歴史学習カリキュラムの開発研究

－「いくつもの日本」を意識した歴史学習へ－

東大阪市立繩手東小学校 濵谷 友和

- (4) 世界遺産の視点を組み込んだ文化学習の展開(Ⅱ)

－中学校社会科における鎌倉文化の実践を通して－

清和大学 小松 伸之

- (5) 「社会科伝統・文化学習」の転回と構築－

－『昭和22年版(試案)』にみられる「社会科伝統・文化学習」について－

文教大学 吉田 正生

## 自由研究発表Ⅱ－第4分科会

B214

司会者 東京学芸大学 大澤 克美  
袋井市立袋井北小学校 神田 明治

- (1) 社会的な見方や考え方を養う社会科学習

－第4学年 より広い視野から見る「わたしたちの“東京都”(東京マラソン)」の実践を例に－

多摩市教育委員会 石井 正広 東京都教育委員会 森 清隆  
小平市教育委員会 志村 安 渋谷区立塙塚小学校 北川 大樹  
八王子市立恩方第二小学校 塙島 敬太 江戸川区立葛西小学校 辻 慎二

- (2) 社会的な見方や考え方を養う社会科学習

－第5学年 「持続可能な水産業」の実践を例に－

日野市立夢が丘小学校 神野 幸隆 東京都教育委員会 國長 泰彦  
八王子市立陶鎔小学校 島田 学 東京都教育委員会 秋田 博昭

(3) 社会的な見方や考え方を養う社会科学習

—第6学年 「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会における国際交流」の実践を例に—  
中野区立西中野小学校 杉渕 尚 東京都教育委員会 児玉 大祐  
東京都教育委員会 間嶋 健 日野市教育委員会 長崎 将幸  
港区立南山小学校 山崎 穎久 八王子市立第八小学校 向井隆一郎

(4) 確かな「見方や考え方」を鍛え、自ら社会に参画する態度を育てる社会科学習

—4年社会科「札幌市の除雪は世界一？！」の実践を通して—  
札幌市立山の手南小学校 佐野 浩志

(5) 身につけた見方や考え方を生かして、社会的事象の意味を考える子の育成

東京学芸大学附属小金井小学校 小倉 勝登  
東京学芸大学附属小金井小学校 根本 徹  
東京学芸大学附属小金井小学校 牧岡 俊夫

自由研究発表Ⅱ—第5分科会

B215

司会者 帝京大学 中山 京子  
大阪教育大学 峯 明秀

(1) 統合社会科カリキュラム開発における条件と機能

—行動主義的目標から構成主義的認知枠組みへの米国 NCSS スタンダードの改訂を事例として—  
東京大学大学院 堀田 諭

(2) 社会科カリキュラムの生態学的研究

—プラン・PDCA・学習環境デザインを超えて—  
佐賀大学 佐長 健司

(3) 新しい農業学習に関するカリキュラム開発①

—養蜂と組み合わせ直売の良さを生かしたメロン栽培—  
荒川区立第二峡田小学校 菅原周一郎 荒川区立第二峡田小学校 小林 渉  
板橋区立第十小学校 盛 裕史 板橋区立第十小学校 丸野 陽子  
板橋区立第十小学校 石橋 昌雄 板橋区立第十小学校 市川 賢治

(4) 新しい農業学習に関するカリキュラム開発②

—都会で育てる完熟ブルーベリー栽培—  
板橋区立板橋第十小学校 石橋 昌雄 板橋区立板橋第十小学校 奥村 菜月  
板橋区立板橋第十小学校 豊田 花梨 立川市立第九小学校 村本 道子  
西東京市立向台小学校 野中 哲平 武蔵野市立本宿小学校 萩原 渚

(5) 「子どもの貧困問題」を小中高社会系教科でいかに取り扱えばよいか

—カリキュラム開発試案—  
西九州大学 松井 克行

**自由研究発表Ⅱ－第6分科会****B216**

司会者

筑波大学  
京都文教大学伊藤 純郎  
澤 達大

- (1) 1950年代前半における「新しい郷土教育」実践の創造過程に関する検討

—郷土教育全国連絡協議会の「理論」と「実践」の関わりに焦点を当てて—

愛知東邦大学 白井 克尚

- (2) 野外調査を取り入れた小学校市町村学習の実態と考察

—群馬県前橋市を事例として—

上越教育大学大学院 大崎 賢一

- (3) 本校地理歴史部・6年間の実践

—ことに、地歴巡検（フィールドワーク）を中心にして—

愛知県立御津高等学校 伊藤 正英

- (4) 教員養成大学における社会科教員としての資質能力育成と社会科副読本の作成

—学部生による地域教材開発力の育成の試み—

愛知教育大学 伊藤 貴啓

- (5) フィールドワークと授業構想・授業実践を繋ぐ学部生の授業力育成

—学部3年生のチームによる社会科授業づくりへの取り組み事例を通して—

新潟大学 宮薗 衛

**自由研究発表Ⅱ－第7分科会****B217**

司会者

国立教育政策研究所  
三重大学樋口 雅夫  
山根 栄次

- (1) 経済リテラシーの向上をめざした中学校公民的分野の学習指導の在り方

—授業の実際と事後調査の検証を中心に—

かすみがうら市立千代田中学校 岡野 英輝

- (2) ものの値段から経済的因果関係を理解する社会科授業の開発

筑波大学大学院 吕 光暎

- (3) 新自由主義を題材とした「効率と公正」を学ぶ経済教育

三重大学大学院 大富 友貴

- (4) 経済的意思決定における数理の働き

—数理テストとゲームパフォーマンスの分析を通して—

長崎大学 福田 正弘

- (5) 租税教育の今日的意義と課題

—なぜ税は“とられる”のか?—

愛知教育大学 真島 聖子

**自由研究発表Ⅱ－第8分科会****B218**

司会者

広島文化学園大学

鳴門教育大学

二階堂年恵

西村 公孝

(1) 市民的資質の育成を目指す法教育の可能性

－学校間連携システムの構築－

掛川市立大須賀中学校

掛川市立桜ヶ丘中学校

静岡県弁護士会

高橋 恒明

岡田 智之

原 道也

(2) 法教育における「契約自由の原則」

－契約の持つ公共性－

南足柄市立岡本中学校

村上 揚

(3) 考える力を育成する法教育に関する一考察

－紙上討論と演劇を活用した実践－

神奈川県立平塚農業高等学校初声分校

金子 幹夫

(4) 法教育における模擬裁判の効果的活用

－公民的資質育成の観点から－

平塚市立江陽中学校

米倉 順

(5) 交渉教育と法教育の連携・融合の可能性

－公民(市民)教育の充実策の一つとして－

筑波大学

江口 勇治

東京都立雪谷高等学校

小貫 篤

**自由研究発表Ⅱ－第9分科会****G001**

司会者

静岡大学

井柳 美紀

帝塚山学院大学

工藤 文三

(1) 社会科教育における男女共同参画教育の構想

－スウェーデンの教育を手がかりとして－

秋田大学大学院

田島 駿己

秋田大学大学院

鮎川 博晃

秋田大学大学院

本間 隆造

秋田大学大学院

阿部 修之

秋田大学大学院

鎌田 達也

秋田大学大学院

嶽石 涼

(2) 社会系教科におけるネットリテラシー教育の単元構想

－公民教育を中心として－

秋田大学大学院

鮎川 博晃

秋田大学大学院

田島 駿己

秋田大学大学院

本間 隆造

秋田大学大学院

阿部 修之

秋田大学大学院

鎌田 達也

秋田大学大学院

嶽石 涼

(3) 「政治的リテラシー」の評価のあり方を探る

お茶の水女子大学附属小学校

岡田 泰孝

- (4) 選挙体験授業による有権者教育  
－「未来の福島県知事選挙」を手がかりとして－

福島県立田村高等学校 小田 賢二

- (5) 行政・大学・高校の連携による模擬県知事選挙とその効果

信州大学 松本 康  
信州大学 関 良徳

## 自由研究発表Ⅱ－第10分科会

G104

司会者

千葉大学 戸田 善治  
宮城教育大学 松岡 尚敏

- (1) 小学校社会科における段階的社會参加学習

高浜市立翼小学校・愛知教育大学大学院 浜下 洋之

- (2) 児童が主体的に社会に関わろうとする社会科学習の在り方

－「子どもが創る 防災フェスタ」2年目の実践－

鶴川市立鶴川小学校 粕谷 昌良

- (3) 自助・共助・公助の視点から社会に参画する態度を育てる教材の開発

－6年生社会科「暮らしの中の政治」札幌市の雪対策をとおして－

札幌市立屯田北小学校 朝倉 一民

- (4) ESDの視点を導入した中学校社会科公民的分野における社会参加学習の単元開発と実践

釧路市立鳥取西中学校 福田 貴志

- (5) 身近な地域の経済活動と環境教育(18)

－「社会貢献意識」の上級学校への接続－

名古屋商科大学 竹澤 伸一

## 自由研究発表Ⅱ－第11分科会

G202

司会者

広島大学 草原 和博  
高千穂大学 鈴木 隆弘

- (1) 社会科教育における暴力・戦争を認識するパラダイム

四日市市立羽津小学校 井川 和道

- (2) 「原爆はなぜ落とされたのか」

－広島修学旅行・事前学習－

北海道北見柏陽高等学校 斎藤 満幸

- (3) ホロコースト教育の変遷

－変化する社会のなかで－

筑波大学 柴田 政子

- (4) 戦後日本の平和教育への一考察  
－日教組全国教研の平和教育実践を中心に－

東京都立国分寺高等学校 西尾 理

- (5) 教員研修における平和教育  
－広島市、長崎市、那覇市の取り組みを事例として－

秋田大学 外池 智

**自由研究発表Ⅱ－第12分科会**

**G204**

司会者

宇都宮大学

溜池 善裕

神戸大学

吉永 潤

- (1) 「創造的調停」に向けた論争的問題の導入  
－お茶小における「八ッ場ダム」実践をてがかりに－

東京大学大学院  
お茶の水女子大学附属小学校  
東京大学大学院  
田中 智輝  
岩坂 尚史  
村松 灯

- (2) 子どもの発想を生かす教材開発と聞く力の醸成  
－商店の授業、食料生産の授業の教材開発を通して－

岡崎市立六名小学校 恒川 徹

- (3) ディベート授業「トロイア戦争は史実か」実践報告  
二松学舎大学附属柏中学校・高等学校  
青山学院高等部  
鈴木 慎也  
藤本 晃裕

- (4) 言語活動の充実を目指した授業実践  
－マンダラチャートを活用したパラグラフライティングからの考察－

関西大学高等部 大谷 和海

- (5) ワークショップ型社会科の授業構成ストラテジー  
山形大学 江間 史明

**自由研究発表Ⅱ－第13分科会**

**B212**

司会者

東北学院大学

坪田 益美

皇學館大学

深草 正博

- (1) 国際バカロレア（IB）の手法による歴史的背景を重視した時事問題学習  
東京学芸大学附属国際中等教育学校  
東京学芸大学附属国際中等教育学校  
山本 勝治  
小松 万姫

- (2) 国際関係論を踏まえた総合学習「国際理解」の試み  
－三重苦は乗り越えられたか－

東京都立小石川中等教育学校 新井 明

(3) 歴史教科書に見るインドネシアの多文化  
—パンチャシラの成立と変容—

愛知教育大学大学院 スヤンティ

(4) 道内中学校の社会科におけるアイヌ民族の取り扱い

苫小牧駒澤大学 伊藤 勝久

昼食

11:30~12:30

## 課題研究 I

## 「知識基盤社会化やグローバル化が進む時代」と社会科の学力

B110

## 〔趣旨〕

「知識基盤社会化やグローバル化が進む時代にある今」。文部科学省『学習指導要領解説社会編』(2008年)が指摘する「社会の変化」です。このような「時代にある今」、社会科はどのような学力を子どもに身につけさせたらよいのでしょうか。また、それは、どのような授業で可能なのでしょうか。具体的に議論したいと考えます。

コーディネーター

東洋大学

栗原 久

愛知教育大学

土屋 武志

基調提案者

国立教育政策研究所

二井 正浩

## 報告者

## (1) 知識の更新・再構成と社会の動向への関心を促す授業の必要性

－小学3年「学校のまわりには、どこに、何があるのかな」の実践より－

裾野市立千福が丘小学校

稻葉 智則

## (2) 「知識基盤社会化やグローバル化が進む時代」と社会科の学力

－自分の言葉で説明できる自作の図解を構想させよう－

筑波大学附属中学校

関谷 文宏

## (3) 「知識基盤社会化やグローバル化が進む時代」と社会化的学力

－ODAを計画してみよう－

千葉県立千葉工業高等学校

藤井 剛

## (4) 韓国の初等社会科教育課程におけるキー・コンピテンシー

韓国光州教育大学校

李 貞姫

## 課題研究 II

## シティズンシップ教育の授業を問い合わせ直す

B111

## 〔趣旨〕

近年、変化する社会に生きる子どもに必要なシティズンシップの育成を目指して、多様なシティズンシップ教育を取り入れた社会科の授業の可能性が模索されています。文部科学省『学習指導要領』(2008年)でも、子どもに社会参画力を培う重要性や、多様なシティズンシップ教育の方向性が示されています。シティズンシップ教育を取り入れた社会科授業は、従来の社会科授業とどのような点が異なっているのか検討します。

コーディネーター

宮崎大学

吉村功太郎

埼玉大学

桐谷 正信

## 報告者

## (1) シティズンシップ教育としてのモビリティ・マネジメント教育

－交通渋滞を考える実践を通して－

宮田村立宮田小学校

市川 武史

埼玉大学

桐谷 正信

- (2) 熟議民主主義に基づく中学校社会科授業の実践  
－3学年 地方自治「加須市のごみ問題を考える」－

加須市立加須平成中学校  
宮崎大学

大谷 直紀  
吉村功太郎

- (3) 選挙シミュレーション教材を使った有権者教育の成果  
－「あなたの一票は政治を変えることができるか？」を考えさせる授業を例として－

岡山県立岡山芳泉高等学校  
川崎医療短期大学

黒田 和義  
中原 朋生

### 課題研究III ESDで社会科はどう変わるか？

B218

#### [趣旨]

ESDは、今の世代だけではなく、将来の世代の利益や幸福にも配慮した公正な社会のあり方を考えさせる教育です。現在、ESDの理念は学校教育全体に広く浸透し始めています。ESDは、これからの中学校の授業やカリキュラムをどのように変えていくでしょうか。その姿を、なるべく具体的に明らかにしていきたいと思います。

コーディネーター

早稲田大学

池 俊介

岡山大学

桑原 敏典

#### 報告者

- (1) ESDにおける批判的消費者学習としての社会科授業構成

－第5学年単元「自動車から見える世界、そして、自分へ」を例に－

竜王町立竜王西小学校

松浦 雄典

- (2) ESDの視点を取り入れた中学校社会科の学習指導の在り方

－地理、歴史、公民の三分野制の特性を生かして－

練馬区立開進第一中学校

池下 誠

- (3) ESDの観点を導入した世界史教育内容開発

－世界遺産から迫る単元「産業革命とアフリカ」－

兵庫教育大学大学院・奈良県立法隆寺国際高等学校

祐岡 武志

- (4) ESDとしての社会科授業の原理と方法

－意思決定のプロセスに着目した社会科授業改革－

岡山大学

桑原 敏典

### 課題研究IV 社会科における教育実習の課題

G104

#### [趣旨]

教育実習は社会科の教員養成に重要な役割を果たしてきたにもかかわらず、その指導内容が具体的に検討されることはほとんどありませんでした。昨年の大会における活発な議論から見えてきた実習生の問題意識の醸成・力量形成の問題、実習生同士の協働的省察のあり方、実習指導の責任の所在などの中から、焦点を絞って議論を深めたいと思います。

コーディネーター 元千葉県公立高等学校  
東京学芸大学

加藤 公明  
川崎 誠司

報告者

- (1) 授業観を変えた教育実習

千葉県立木更津高等学校 時田 朋子

- (2) 地域と人間のかかわりを考える

—地域に生きる人々への聞き書きを通じて—

奈良女子大学附属中等教育学校 北尾 悟

- (3) 教育実習での教科指導の諸問題

成蹊大学 木内 剛

課題研究V

「歴史基礎」「地理基礎」の可能性

G204

[趣旨]

2011年に学術会議が高校地歴教育の改革について提言を出しました。その柱が「歴史基礎」「地理基礎」の新設です。これは、高校の社会系科目の在り方を大きく左右しますが、学校現場では十分に認知されていません。高校や中学校で教鞭を執る会員も多い本学会の特性を活かし、「歴史基礎」「地理基礎」の問題を検討したいと思います。

コーディネーター

弘前大学

篠塚 明彦

東京都立大森高等学校定時制

佐藤 亨

報告者

- (1) 歴史基礎と思考力育成型授業の提案

—日本学術会議の提言とアンケート結果の分析—

東京女子大学 油井大三郎

- (2) 世界史・日本史の統合から身近な地域・事象へ

—自分と日本史・世界史との結びつきに関する認識の育成を—

東京都立墨田川高等学校 加藤 健

- (3) 「地理基礎」〔案〕作成の背景

—なぜ高校で「地理」が必要か—

筑波大学 井田 仁康

- (4) 「地理基礎」の学習内容と課題

—研究開発学校の実践を踏まえて—

埼玉県立浦和第一女子高等学校 浅川 俊夫

※司会者のお名前は、五十音順に記載しています。

※大学院重点化による大学院大学の所属につきましては、大学院生との区別をはっきりさせるために、便宜上大学名で記載させていただきました。

# 大会参加要項

## 1. 参加費等

### (1) 大会参加費

一般会員：3000 円（事前登録），3500 円（当日登録）

学生・院生会員：2500 円（事前登録），3000 円（当日登録）

非会員：3500 円（事前登録・当日登録）

### (2) 懇親会参加費

会員・非会員：4000 円（事前登録），5000 円（当日登録）

### (3) 弁当代（お茶付き）

第 1 日目のみまたは第 2 日目のみ：800 円 両日：1600 円

【振り込み先】 ゆうちょ銀行

口座記号：00880-8 口座番号：215430

口座名：日本社会科教育学会第 64 回全国研究大会実行委員会（ニホンシャカイカキヨウイクガッカイダイイロクジュウヨンカイゼンコクケンキュウタイカイジッコウイインカイ）

## 2. 大会参加の登録について 【締切】2014（平成 26）年 10 月 31 日（金）

- (1) 大会への参加は、学会ホームページの第 64 回全国研究大会（静岡大会）([http://socialstudies.jp/ja/research\\_conference.html](http://socialstudies.jp/ja/research_conference.html)) をご確認の上、学会ホームページから送信してお申し込み下さい。ホームページをご覧になれない方は、メールまたはファックスでお送りいただいても結構です。
- (2) 大会の受付事務は、静鉄観光サービス株式会社（担当：杉山智之）に委託しています。連絡先は、メールアドレス：[t-sugiyama@shizutetsukanko.com](mailto:t-sugiyama@shizutetsukanko.com), FAX：054-251-6710 になります。
- (3) 大会参加の登録、大会参加費・懇親会参加費・巡検費・弁当代・宿泊費の振り込みは、全て 10 月 31 日（金）が締切です。
- (4) 振り込みが確認できた時点で、大会参加の事前登録の完了とみなします。なお、事前登録された方には、当日配布する『大会論文集』を確保します。当日の受付の混雑を緩和するためにも、可能な限り、事前登録をして下さい。
- (5) 11 月 24 日（月）までの事前登録のキャンセルは、振り込み手数料を除いて返金します。静鉄観光サービス株式会社（担当：杉山智之）にご連絡下さい。

## 3. 研究発表の準備について

- (1) 自由研究発表の発表時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分（計 30 分）です。
- (2) 研究発表で資料を配布される場合は、自由研究発表は 70 部以上、課題研究発表は 100 部以上、シンポジウムは 400 部以上をご用意の上、発表当日ご持参下さい。なお、発表資料が不足する場合に備えて、若干の余裕の部数をご用意下さい。
- (3) 発表の際は、事務局で準備するプロジェクターをご利用いただけます。プロジェクターをご利用の方は、ご自身のパソコンをご持参下さい。

## 4. 11 月 28 日開催の関連行事

### (1) 授業公開

静岡大学教育学部附属島田中学校を会場に、授業公開および研究協議会を行います。参加費用は無料です。大会参加の登録時に、学会ホームページから送信してお申し込み下さい。授業公開のみ参加希望の場合は、大会事務局までメールにてご連絡下さい。

## (2)巡検

富士宮市周辺を対象地域とする巡検を行います。参加費用は 1500 円です。大会参加の登録時に、学会ホームページから送信してお申し込み下さい。巡検の内容は、富士宮市立井之頭中学校にて「富士山学習」の説明、学校林の見学、富士山本宮浅間大社の散策等を予定していますが、予告なく変更することがあります。なお、帰路の静岡駅到着時刻が、交通事情等により遅延することがあります。天候により富士山が眺望できない場合があります。集合場所等の詳細は、参加者確定次第、メール等で事前に連絡します。

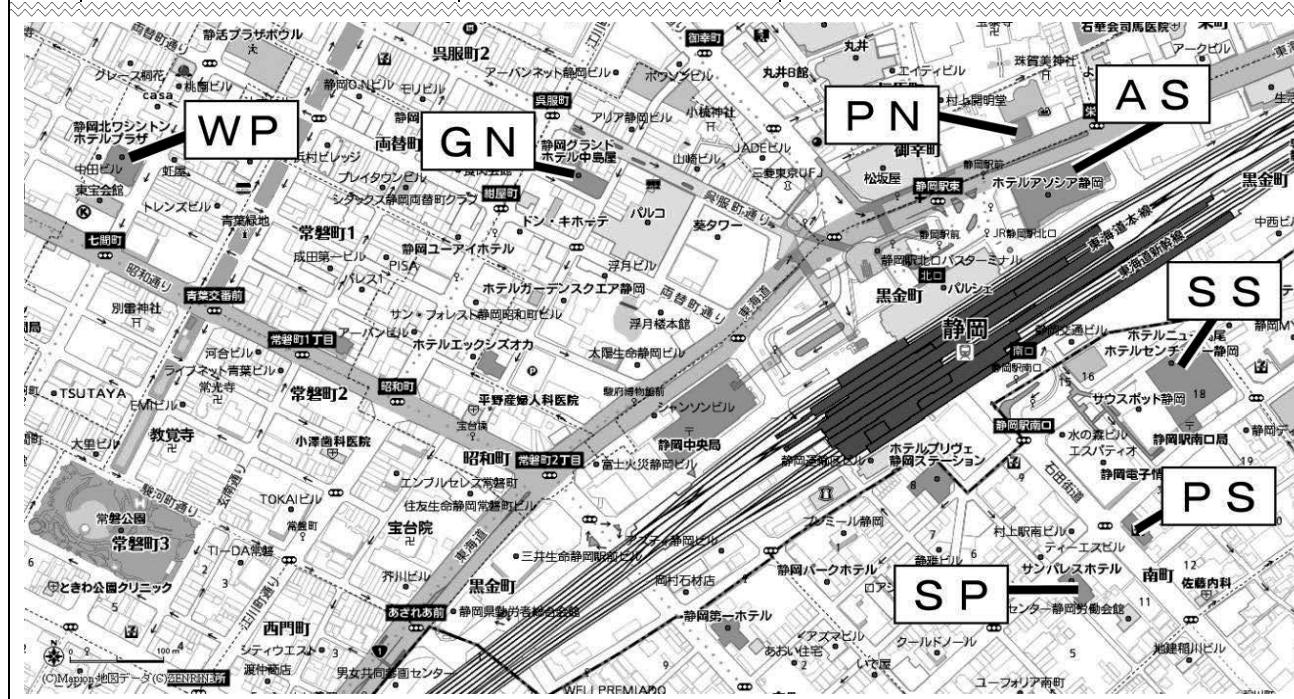
## 5. 会期中の昼食（弁当）

大学近辺にはコンビニ・飲食店がほとんどありませんが、29 日（土）のお昼のみ、学食（生協第一食堂）および購買（フードショップ）が営業しております。ただし、大学構内は坂道や階段が多いので、移動に負担を感じられる方は、弁当の注文をお勧めします。30 日（日）は、特に注文することをお勧めします。弁当は 29 日（土）、30 日（日）ともにお茶付きで 800 円です。弁当の注文は、大会参加の登録時に、学会ホームページから送信してお申し込み下さい。なお、学食（生協第二食堂）が、弁当の受け取りと会食の会場となります。

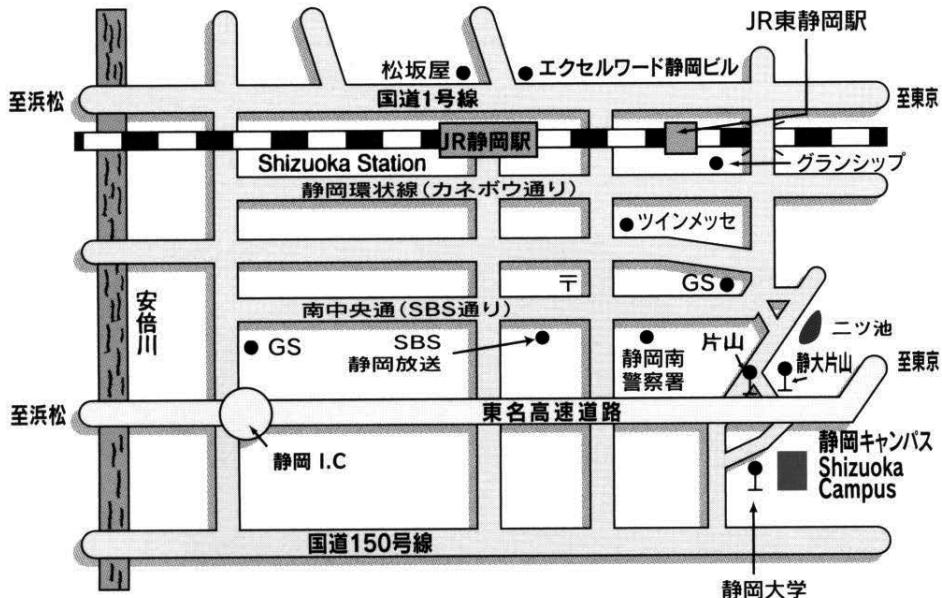
## 6. 宿泊のご案内

宿泊の予約は、下表より選択の上、大会参加の登録時に、学会ホームページから送信してお申し込み下さい。送信する項目は、①宿泊先記号、②宿泊日、③禁煙・喫煙別になります。宿泊先は、全てシングル、朝食付きになりますが、その他のご希望がある場合は、宿泊の申し込み時に静鉄観光サービス株式会社（担当：杉山智之）にご相談下さい。宿泊先の部屋数に限りがありますので、ご希望に添えない場合もあります。

宿泊先記号・宿泊先名		料金(1泊・税込・シングル朝食付き)	所在地
PN	静鉄ホテルプレジオ駅北	8,780 円	静岡市葵区御幸町 11-6 ☎054-252-2040 <a href="http://www.hotel-prezio.co.jp/">http://www.hotel-prezio.co.jp/</a> ◆JR 静岡駅北口より徒歩約 3 分。
PS	静鉄ホテルプレジオ駅南	10,100 円	静岡市駿河区南町 13-21 ☎054-202-5000 <a href="http://www.hotel-prezio.co.jp/">http://www.hotel-prezio.co.jp/</a> ◆全て禁煙ルームとなります。 ◆JR 静岡駅南口より徒歩約 2 分。
AS	ホテルアソシア静岡	11/29 : 12,000 円	静岡市葵区黒金町 56 ☎054-254-4141 <a href="http://www.associa.com/sth/">http://www.associa.com/sth/</a> ◆11/28 は満室です。 ◆静岡駅北口より徒歩約 1 分。
SS	ホテルセンチュリー静岡	11/28 : 10,550 円 11/29 : 11,550 円	静岡市駿河区南町 18-1 ☎054-284-0111 <a href="http://www.centuryshizuoka.co.jp/">http://www.centuryshizuoka.co.jp/</a> ◆JR 静岡駅南口より徒歩約 1 分。
GN	静岡グランドホテル中島屋	8,800 円	静岡市葵区紺屋町 3-10 ☎054-253-1151 <a href="http://www.sn-hotels.com/sgh/">http://www.sn-hotels.com/sgh/</a> ◆JR 静岡駅北口より徒歩約 5 分。
SP	サンパレスホテル	7,800 円	静岡市駿河区南町 11-29 ☎054-282-2277 <a href="http://www.sunpalace-h.jp/">http://www.sunpalace-h.jp/</a> ◆JR 静岡駅南口より徒歩約 3 分。
WP	静岡北ワシントンホテル プラザ	11/28 : 6,900 円 11/29 : 8,300 円	静岡市葵区七間町 11-1 ☎054-221-0111 <a href="http://shizuoka.washington.jp/">http://shizuoka.washington.jp/</a> ◆全て禁煙ルームとなります。 ◆JR 静岡駅北口より徒歩約 10 分。



## 7. 会場へのご案内



### 【バス】

JR 静岡駅北口 8 番バス乗り場より、しづてつジャストライン・美和大谷線

「静岡大学」行き（35 番）または「東大谷」行き（34・36 番）に乗車（土日は 1 時間に 4~6 本運行）

「静岡大学」行き便に乗車の場合、静岡大学停留所下車（約 25 分、290 円）

「東大谷」行きで「静岡大学」経由便に乗車の場合、静岡大学停留所下車（約 25 分、290 円）

「東大谷」行きで「片山南」経由便に乗車の場合、片山停留所下車（約 25 分、290 円），徒歩約 5 分

※大学構内は、坂道や階段が多いので、会場までの移動時間にご注意下さい。

※定期路線バスの時刻は、次の通りです。いずれも静岡大学バス停に停まります。なお、JR 静岡駅→静岡大学および静岡大学→JR 静岡駅のバスについて、臨時便を出す予定です。

JR 静岡駅→静岡大学 7:11 7:37 7:52 8:07 8:22 8:37 8:47 8:59

静岡大学→JR 静岡駅

29 日（総会終了時） 17:09 17:17 17:29 17:38 17:49 17:57

29 日（懇親会終了時） 19:09 19:21 19:34 19:49 20:04

30 日（課題研究発表終了時） 14:57 15:09 15:17 15:29 15:37 15:49 15:57

### 【タクシー】

JR 静岡駅南口より約 20 分、2000 円程度

JR 東静岡駅南口より約 10 分、1400 円程度

※大学構内には一般駐車場はありませんので、自動車での来校はご遠慮下さい。

## 8. お問い合わせ

学会ホームページ ([http://socialstudies.jp/ja/research\\_conference.html](http://socialstudies.jp/ja/research_conference.html))

※大会に関する最新情報は、学会ホームページにて随時お知らせします。

### (1) 大会参加の事前登録、自由研究発表の登録、大会参加費・懇親会費・巡検費・弁当代・宿泊費の振り込み

静鉄観光サービス株式会社

日本社会科教育学会第 64 回全国研究大会（静岡大会）実行委員会 会計・受付部 杉山智之

メールアドレス : t-sugiyama@shizutetsukanko.com FAX : 054-251-6710 TEL : 054-251-6415

### (2) その他の事項

日本社会科教育学会第 64 回全国研究大会（静岡大会）実行委員会 事務局 磯山恭子

〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836 静岡大学教育学部

メールアドレス : jass64th@gmail.com

※問い合わせは、メールでお願いします。電話の場合には、静鉄観光サービス株式会社（担当：杉山智之）に連絡して下さい。

# 静岡大学 キャンパスマップ



避難所

災害時には会場係の指示に従い、避難所に移動して下さい。

シンポジウム・総会  
(人文社会科学部大講義室)

研究発表  
(教育学部  
B・G棟)

B

G

受付  
(教育学部 B 棟  
1 階ピロティ)

図書館

弁当受取(30日)  
(生協第2食堂)

懇親会  
(生協第1食堂)

購買(29日)  
10~14時営業

■ ■ ■ 徒歩のルート

【徒歩移動時間の目安】

バス停 ⇄ 教育学部 B・G 棟 … 約 10 分

バス停 ⇄ 懇親会会場 … 約 5 分

懇親会会場 ⇄ 教育学部 B・G 棟 … 約 5 分

教育学部 B・G 棟 ⇄  
人文社会科学部大講義室 … 約 7 分

静岡大学  
バス停

静大片山・  
片山バス停方面

## 会場案内

